

安全・安心で高品質・良食味

## 日本一の「魚沼米」づくり

### 〈魚沼米憲章 実践のポイント〉

#### 1. 「高品質・良食味米」の維持向上のための10か条

- (1) 美味しさと品質を最優先した米づくりとするため、目標収量は510kg/10a(8.5俵)を基準とすること。
- (2) 玄米タンパク含有率は、美味しさの基準である6.0%を目標とすること。
- (3) 稲わらは、田んぼにすき込み、堆肥や土づくり肥料等を施用し、土づくりに努めること。
- (4) 種子は県内で穫れた種もみを使用し、毎年更新すること。
- (5) 8月8日以降に穂が出るよう、田植えは5月中下旬に行うこと。
- (6) 稲の生育に合わせて中干し・溝切りを行い、生育診断に基づき穂肥を施用すること。
- (7) 稲の稔りを良くするため、落水は穂が出てから25日以降とし、高温の場合は可能な限り遅くまで落水しないこと。
- (8) 胴割等の品質低下を防ぐため、適期に刈り取り、適正に乾燥すること。
- (9) 整粒歩合の高い米に仕上げるため、調製には1.90mm以上の篩い目を使用し、丁寧に調製すること。
- (10) 全量が1等米に格付けされるよう、稲をよく観察し、気象情報に留意して、適正に各作業を実践すること。

#### 2. 「安全・安心の米づくり」に向けた5か条

- (1) 環境と調和の取れた農業生産活動を進めるため、みどりの食料システム戦略やSDGs等の環境負荷低減の取組に努めること。
- (2) 気象変動による品質低下を避けながら化学合成農薬・化学肥料の使用量を慣行基準の5割以上減らすことを目指し、環境にやさしい農業に取り組むこと。
- (3) 農道や畦畔は、草刈りを基本とすること。
- (4) 生産履歴を記帳し、いつでも履歴情報が公開できること。
- (5) 安全・安心な栽培につながるGAPの実践を目指すこと。

### 魚沼米憲章

～ トップブランド「魚沼コシヒカリ」の更なる飛躍を目指して～

#### 【序文】

トップブランド魚沼コシヒカリの産地として、魚沼の自然、そして何よりも消費者と向き合った米づくりを続けるため、以下四つの取り組みを魚沼米に携わるもの全ての共通理念として掲げ、生産者・関係団体が一体となって実践する。

- 一、魚沼コシヒカリを育んだ故郷魚沼の自然に感謝し、地域の環境保全、景観に配慮した農業を推進します。
- 一、日本一の良食味米産地として、消費者に最高の食味の魚沼コシヒカリを安定的に提供するため、「高品質・良食味米」の維持向上のための10か条を徹底して実践します。
- 一、消費者との対話に努め、常に消費者に安全・安心を提供していくため、「安全・安心の米づくり」に向けた5か条を徹底して実践します。
- 一、常に栽培技術の向上・研鑽に努め、米づくり八十八の手間を惜しむことなく、最後の一粒までトップブランド魚沼コシヒカリに仕上げます。



魚沼米改良協会

# 「日本一おいしい」魚沼コシヒカリ生産のポイント

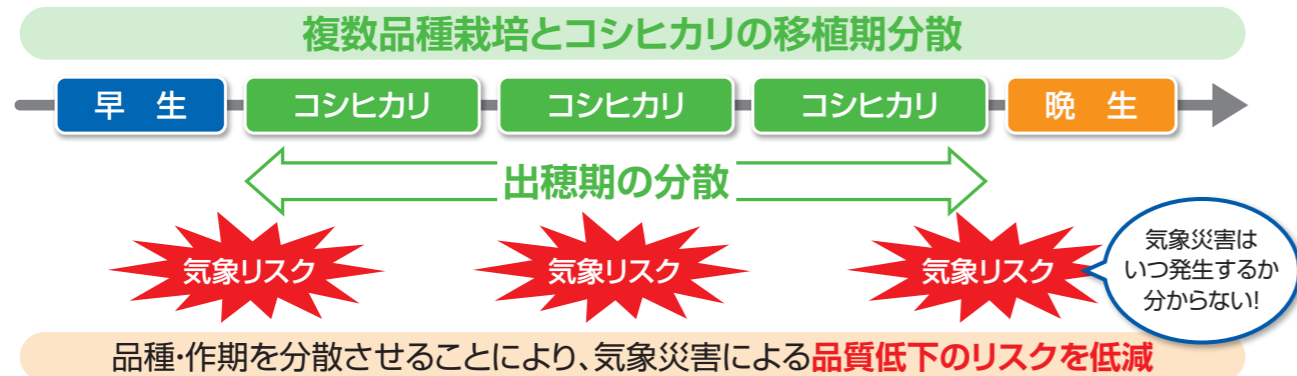
異常高温等の気象変動リスクに備え、作期分散や後期栄養確保等の技術対策を徹底し、魚沼米の高品質・安定供給をめざしましょう。

## 1 土づくりで土壤環境を整え、異常気象に強い稲体にしましょう。

- ★土壌診断に基づき、ケイ酸を含む土づくり資材や堆肥等を施用し、異常気象に強い稲体に育てましょう。
- ★稲わら・粉がらの秋すき込みで、地力の向上を図りましょう。
- ★耕深15cmを目標に耕うんし、根の健全な発達を促しましょう。

## 2 健苗を育成しましょう。田植え時期の分散により品質低下のリスクを減らしましょう。

- ★田植えは5月中下旬を基本としましょう。田植え時期の分散などで高温登熟に遭遇するリスクを避けましょう。
- ★田植え時期に合わせた播種により、活着の良い健苗を育成し、早期に初期生育を確保しましょう。



## 3 適期中干しで生育を調節しましょう。

- ★昨年のひこばえが多いため、ワキの発生による生育への影響が懸念されます。ワキの発生が多い場合は、水の更新や夜間落水を行い、根に酸素を供給し初期生育を促進しましょう。
- ★田植え25日後頃に生育を確認し、茎数が目標穂数の7~8割確保できたら直ちに中干しを始めましょう。中干しは、遅くとも田植え30日後には始めましょう。
- ★溝切りを必ず行い、田面水の速やかな排水や異常高温時に速やかなかん水ができるようにしましょう。
- ★中干しの強さは、田面に小ヒビが入る程度とし、遅くとも出穂期1か月前をめどに終了しましょう。

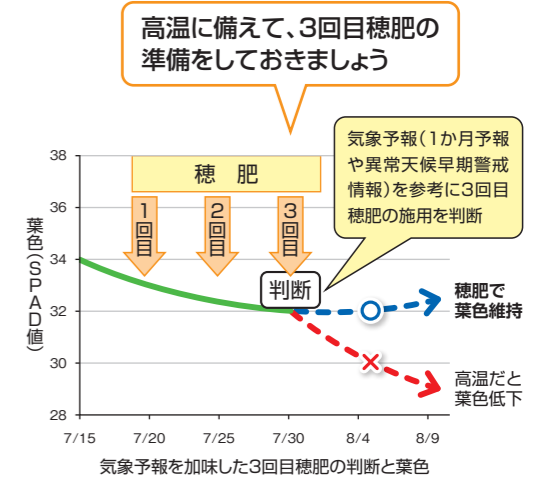


## 4 生育診断に基づく、適期・適量の穂肥で後期栄養を確保しましょう。

- ★穂肥1回目(出穂期前日数18~15日)は幼穂形成期に生育診断を行い、穂肥の時期と施用量を決め、籾数確保と倒伏防止を図りましょう。
- ★穂肥2回目(出穂期前日数10日)は必ず施用し、後期栄養を確保しましょう。
- ★追加穂肥が出来る体制づくりをしましょう。

### 異常高温時の対応 | 3回目(追肥)穂肥(出穂期3日前まで)

- ★栄養凋落が懸念される場合、分施肥体系や全量基肥体系いずれも追加穂肥を施用する。
- ★分施肥体系で、3回目穂肥の対応が難しい場合は、2回目の穂肥量の増量を検討する。

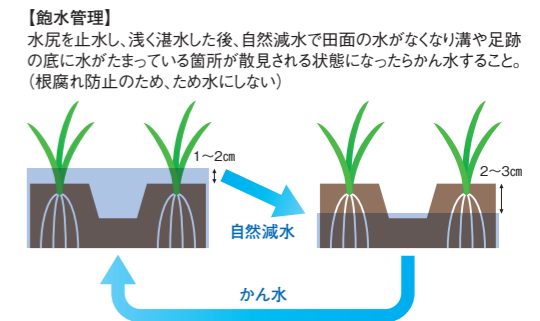


## 5 中干し以降は飽水管理で後期栄養を維持しましょう。

- ★中干し以降は、限りある用水を有効利用する飽水管理を徹底し、高温時の地温の上昇を抑え、根の健全化を図りましょう。
- ★落水期は出穂期25日後以降にしましょう。また、用水が確保できる地域では、出穂後30日まで飽水管理を継続しましょう。

### 異常高温時の対応

- ★輪番、番水など、地域の水管理体制を実施する。
- ★地域の水利条件に応じて、こまめな水管理で水温上昇を抑制する。



## 6 適期に収穫し、丁寧な乾燥・調製作業で良食味に仕上げましょう。

- ★出穂後の積算気温を参考に、籾の黄化率を確認してから、適期に収穫しましょう。
- ★適正な乾燥速度となるよう、張込水分に応じた乾燥温度を設定し、胴割粒の発生や過乾燥を防止しましょう。
- ★適正流量による丁寧な調製や篩目1.9mmを活用し、整粒歩合の高い米に仕上げましょう。

### 異常高温時の対応

- ★品質低下防止のため、早めに収穫を開始する。

## 7 草刈りと薬剤防除の徹底で斑点米を防止しましょう。

- ★農道、畦畔と水田内の雑草管理の徹底と、適期・適正な薬剤防除を実施して斑点米の発生を防止しましょう。



お問い合わせは各地域のJA・普及指導センターまで

